



法事は誰のため?!

法事は亡くなった人のため
にあるではありません。生
きる私たちのためにあるの
です。亡くなられた方より
「命におもいを寄せる日」を
いただき、命のつながり・
さまざまな感謝、アミダさま
のお心に出遇うご縁をいた
だいてまいりましょう。

仏事は誰のため?!

～ つながっていく “いのち” ～





「一番大切な私の命」

「あなたにとって一番大事なものは何ですか？」
と聞かれたら多くの人は「私自身です。私の命です。」
とこたえるのではないのでしょうか。

死んだら全て終わり、何も残らない、
だから今の私の満足につながる「何でも思い通りになる事」を
最大限求めているのです。

それでは「一番大事な命を、大切に大事に生きていますか？」

と問われたらどうでしょう。

「はい」と即答できない私ではないのでしょうか。

「大切にしているつもり」というところでしょうか。

ひとり めいにち
一人の人間の命の終わりの日を命日といいあらわしてきました。

人間の命の終わりの日にもかかわらず

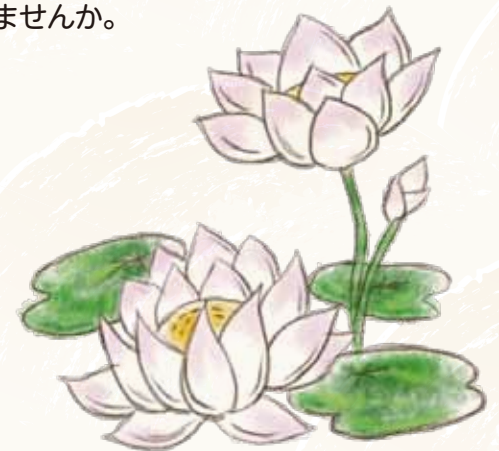
命日 いのち (命の日) というのは不思議に思われるでしょう。

命日を、故人から「命を考える日」を

与えてくださっていると受け取り、

あらためて人間の命、

私の命に思いを深めてみませんか。



「あなたは あなたが好きですか」

一番大切に大事に思っている自分の命ですが、
「その自分自身が好きですか？」と
聞かれたらどうでしょう。

顔とか体型や性格など、好きなところもあるし・
嫌いなところもあるといったところでしょうが、
好きといえる人は少ないかもしれません。

「日々の行動はどうでしょうか？」
周りの人に気をつかいながら
本当の私の心は覆い隠し
必死に良い人を演じていることがたくさんあります。

自分が自分らしくなくなっていくことで、落ち着けない、
心ゆれ続ける私を好きになることはむずかしいと思います。

「何のために生きているのですか？」と聞かれ
「生まれた[・]ついでに生きている」と答えた人がありました。

本当は喜びや感動を願いながら、その願い通りにならない現実
のため息をつき、どう生きればいいのかわからない

苦境が投げやりな言葉となって

「ついで」と言わざるをえなくなったのではないのでしょうか。

しかしそれは逆に、ゆるぎない喜びや感動あるものに出^{であ}会いたい、

本当は自分らしく生きたいという欲求が願いの奥底にあるのでしょうか。

自分を好きになれないで“大切にしている[・]つもり”でしかない命、

ついでの人生と思いながら生きることは、とても辛いことです。

その私に「それでいいんだよ。あなたはあなたでいいんだよ。

自分を好きになっていいんだよ。」と認めてくれるものを

誰もが望み願っていると思うのです。



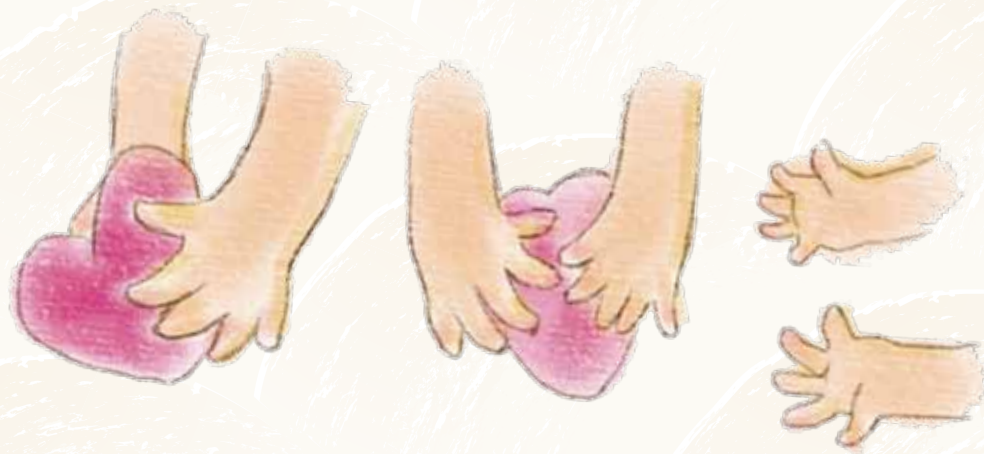
「無限のつながりの中を 生かされ生きる」



私の命は両親をはじめとして無限のつながりと、あらゆる支えの中にあります。
地球上で生命が誕生したのは約四十億年前と言われています。
それゆえ私の命の歴史は四十億年前にさかのぼり、私につながる命(先祖)は天文学的な数になります。
四十億年のはてしない旅をへて私の命があるのです。
ですから私の命の内容は、すべての命のつながりの中で、今私は生き生かされているのです。

手のひらと手のひらを胸の前で静かに合わせる合掌の姿があります。手を合わすことのできる生き物は犬や猫など他にも様々いますが、人を想い・人に感謝し・人を偲び、また仏さまを尊びながら手を合わせ合掌をするのは人間だけです。

その合掌する縁を、愛しい亡き人を偲ぶ命日や法事より与えられているのです。



“拝む人は 同時に拝まれている”といわれています。
私が愛しい亡き人を思い願うことは同時に、私の命の内容となっている四十億年の無限・無数のつながりの命すべてから私が願われていることなのです。

「死んだら終わりと思ったり、良い人を演じている私は本当の私でない」と思い悩む自分の事を好きになれない私が拝まれているのです。

目に見えない命のつながりの願いを受けとめることは、私と向きあっていることなのです。

身近に与えられている縁(命日・法事)は、他人のためではなく私のためにあるのです。

仏事とおし

「自分自身を好きになってもいいんだよ!好きな自分自身を精一杯生きて!」と聞こえてくるかも知れません。